

宮崎県北の方言はなぜ変化したのか

小野 将京 河野 世奈 田中 遥歌
田中 佑実 八幡領 俊希

担当 山中 千聡先生



研究の動機

延岡市外の出身者と会話していてニュアンスの違いや延岡では使わない言葉があって不思議に思い、なぜ同じ県北なのに違うのか気になったから。

研究方法

- 1 延岡市外から延岡高校に来ている知り合いに、どんな延岡の言葉を聞いて違和感を覚えたかを聞く。
- 2 「1」で聞いた言葉を使うかを問うアンケートを作り、延岡市、北浦町、日向市、高千穂町、椎葉村のそれぞれの役場、中学校、老人ホーム1施設ずつに30名程度に回答してもらう。
- 3 回答してもらったアンケートを集計し、最も市町村ごとの違いが大きかった言葉がどのような変化をしたかを調べる。
- 4 言葉の変化がどのような背景で起こったのかを調べ、考察する。

仮説

江戸時代に幕府領だった地域とそうでなかった地域の違いなどの歴史的背景や、河川や山に隔てられた地域と平野部との間でも地理的な要因が方言の違いに大きな影響を与えているのではないかと考える。

また、九州方言は大きく豊日方言(宮崎県、大分県、福岡県西部)、肥筑方言(熊本県、長崎県、佐賀県、福岡県西部)、薩隅方言(鹿児島県、宮崎県諸県地方)に分けられるので、同じ豊日方言に属する地域間で言葉が影響を受けて変化したのではないかと考える。

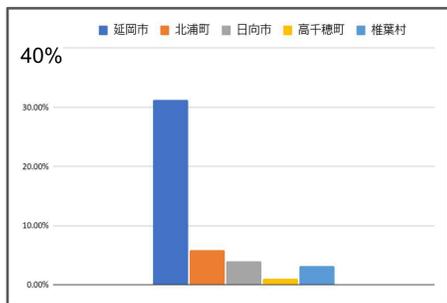


質問内容

1. じゃんけんのあいこの際に『しよっしょのしよ』と使いますか？
2. 普段の会話の際、語尾『げな』を使いますか？
3. 普段の会話の際、語尾に『ちやが』を使いますか？
4. 普段の会話の際、語尾に『やっチャ』を使いますか？
5. 普段の会話の際、語尾に『ばい』をつけますか？
6. お手玉の事を『おじゃみ』と呼びますか？
7. かさぶたのことを『つ』と呼びますか？
8. かわいそうの意味で『もぞなぎい』という言葉を使ったり、聞いたりしたことがありますか？

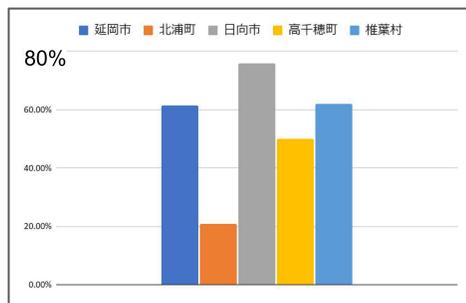
研究の結果

1. 『しよっしょのしよ』



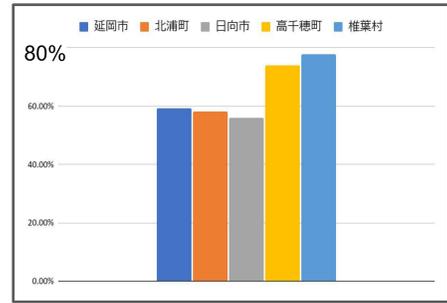
↑ 5市町村における「しよっしょのしよ」を使う割合

2. 『げな』



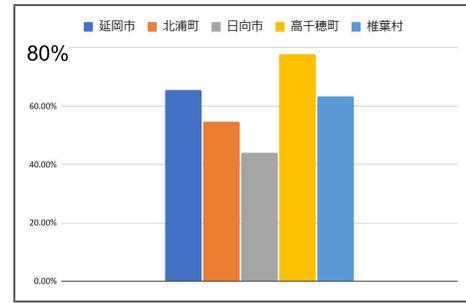
↑ 5市町村における「げな」を使う割合

3. 『ちやが』



↑ 5市町村における「ちやが」を使う割合

4. 『やっチャ』



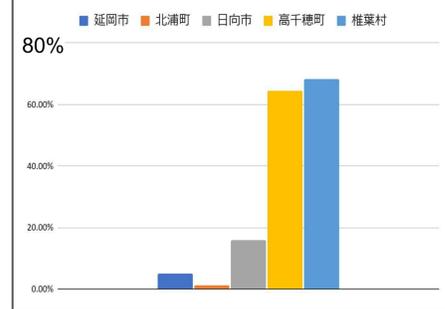
↑ 5市町村における「やっチャ」を使う割合

謝辞

本研究を行う上で一年間ご指導いただいた木佐貫先生、山中先生、アドバイザーの方にお礼を申し上げます。

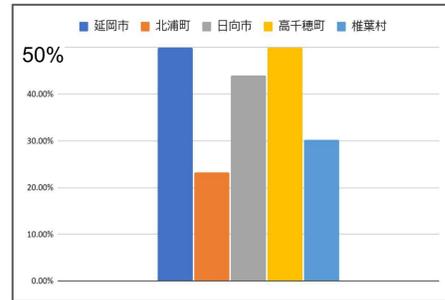
また、研究にご協力いただいた事務室の先生や校長先生、役所、中学校、施設の皆様にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

5. 『ばい』



↑ 5市町村における「ばい」の使う割合

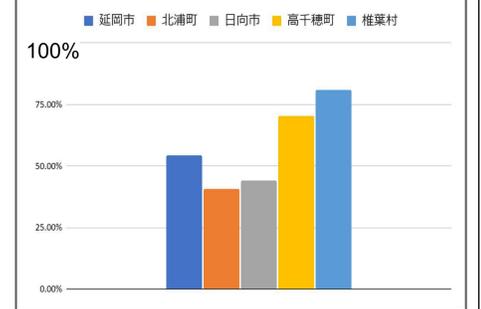
7. 『つ』



↑ 5市町村における「つ」の使う割合

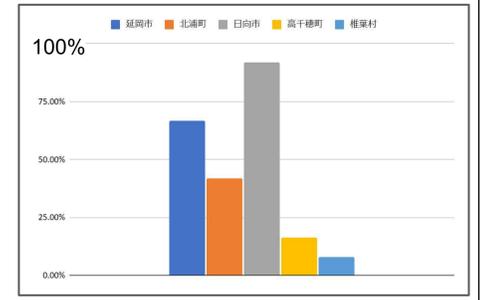
1のグラフの最大値は40% 7のグラフの最大値は50%
2.3.4.5のグラフの最大値は80%

6. 『おじゃみ』



↑ 5市町村における「おじゃみ」の割合

8. 『もぞなぎい』



↑ 5市町村における「もぞなぎい」の使う割合

気づいたこと

- ・ほとんどの質問で地域差が出た
- ・一番大きな差が出たのは8の「もぞなぎい」
- ・1「しよっしょのしよ」2「げな」5「ばい」も差が大きいですが他の言葉はあまり差がない

考察

(例)8. 「もぞなぎい」について

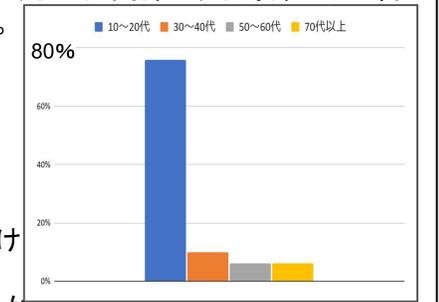
「もぞなぎい」は「無慙」という言葉が語源の、旧宮崎郡(現宮崎市全域)で使われていた言葉です。西都市で使われていた「むぞがる」や児湯郡で使われていた「もぞがる」が形容詞の形に変化したものと言われていて二つともかわいがるという意味。また、同じ語源から生まれた「むぞか」は熊本県や鹿児島県、佐賀県など九州全域で使われています。

「もぞなぎい」を聞いたり、使ったりしたことがある割合が最も高かった日向は、江戸時代には江戸幕府の直轄領と高鍋藩領でした。江戸幕府、高鍋藩はどちらも児湯郡を同じく支配していて、(上図参照)両方の地域を人々が行き来する間に児湯郡の「もぞがる」が形容詞化したのではないかと考察します。また、岩手や宮城で使われる「もぞい」が福島県磐城平の内藤氏が延岡入りするときに持ち込まれたこと、日向に地理的に近いことが延岡の割合が高くなった理由と考えます。反対に高千穂の割合が低いのは逆に地理的に遠く、また山間部で、平野部からの言葉の流入が少なかったからであると考えます。



(例)1. 「しよっしょのしよ」

「しよっしょのしよ」は、延岡市の10~20代以外ほとんど使わない非常に若い言葉であることが分かりました。実際、昭和56年編纂の宮崎県方言辞典や他の文献にも一切記載がなく、わずかに長崎新聞で取り上げられていただけでした。延岡市以外でほとんど使われていないこと、使用者のほとんどが若い人であることから県外から持ち込まれた言葉であるのではないかと考えます。



↑ 延岡市「しよっしょのしよ」を使う割合

今後の課題

今回は「しよっしょのしよ」と「もぞなぎい」だけに注目したため、次は他の言葉がなぜ市町村ごとに差が出るか、なぜこの言葉は地域差が出なかったのかについて調べていきたい。また、「しよっしょのしよ」のように同じ市なのに年代によって変わるのかにも注目していきたい。

参考文献

日本における方言調査法

[http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/results/cours\(2001\)/abe_ip.htm](http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ykawa/results/cours(2001)/abe_ip.htm)

miten No.6江戸の世は、現在につながる地域性を生み出した～

<https://www.miten.jp/miten/modules/popnublog/index.php?param=9-200803>

長崎新聞(2017年)<https://nordot.app/312760635270399073>

古語が伝わる宮崎のことば(板東 運雄 p210~211 p216 2000発行 宮崎日日新聞社)

宮崎県方言辞典(原田 章之進 p484~485 p493 1979年発行 風間書房)

ことばの系譜九州方言考(原田 種夫ほか p37~64 1982年発行 読売新聞社)